

命のつながり

一宮市立北方中学校

三年

原 はら

百花 ももか

「あの時、おじいちゃんちゃんの先輩がいなかったらお前たちはいないい」とある日、父が話をしました。

私の曾祖父は、戦争真つただ中の時代で、戦争に軍医として行かなければなりません。しかし、曾祖父は、結婚直後だつたため、曾祖父の先輩が「おまえは新婚なんだから俺が代わりに行ってやるい」と言つてくれた

そうです。戦争に行けば、必ず帰つてこられるとは限らない。いつ死んでもおかしくない。それを理解していながら、代わりに行くと言つてくれたのです。しかし、先輩は戦死してしまつたそうです。その後程なくして、祖母が産まれ、曾祖父は軍医として戦地に出向き、生きて日本に帰ることができたそうです。でも、もしあの時曾祖父が行つていたら、父も私もないかもかもしれません。だから、あの時勇気を出して代わつてくれた先輩や、辛い戦

争の中生き抜き、私たち子孫を残してくれた
曾祖父に日々感謝していかねばならない
なと思いましたが。また、人と人とのつながり
も大切にしていこうと思います。

では、こんなにも悲惨な戦争なのに、なせ
なくならないのでしょうか。それは、価値観
が違い、¹あたりまえ²が違うからです。困
³ている人を助ける事があたりまえの人もい
れば、人から奪う事があたりまえの人もいま
す。皆で一緒に少しだけ豊かになりたい人も

いれば、自分一人だけが豊かになれば良い人
もいます。⁴そうやって、⁵あたりまえ⁶が違
うから、⁷正せ⁸と言⁹ても絶対に変わりま
せん。なせなら、お互いに自分が正しいと思
¹⁰っているからなのです。
このような価値感のギャップが広がり続ける
と、やがて戦争へと発展させるのだと私は思
います。
¹¹自分が正しい、¹²相手が違¹³う、¹⁴私にと¹⁵って、
僕にと¹⁶って、¹⁷自国にと¹⁸って、¹⁹と考²⁰えてしま²¹う

のです。でも「相手にとって、他国にとって
と自分本意な解釈を捨て、他人の都合を考え、
他人を思う気持ちを持つと、少しずつ見える
世界が変わっていかもしれません。

だれかのおかげで生かされている。
だれかと共に生きている。

家族だけでなく、身近な人とも命が繋がっ
ている。

このようなことを皆が少し意識できるように
なれば、やがて対立がなくなり、少しずつ平

和な世界へと導かれるのではないでしょうか。